職業用766型

使い方の手引

ジャノメミシン

安全にご使用いただくために

ミシンをご使用になる前に、 取扱説明書を十分にお読みいただき正しく、 安全に、 ご使用下さい。
お読みになった後、 取扱説明書は必要なときに、すぐに取り出せる場所に保管して下さい。

⚠ 警 告　感電・火災の恐れがあります

1. ミシンのそばで火気を使用しないでください。
2. 以下のような時は電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて下さい。
   - ●ミシンのそばを離れるとき
   - ●ミシンを使用したあと
   - ●ミシン使用中に停電したとき
3. お客様自身での分解・改造はしないで下さい。

⚠ 注 意　感電・火災・けがの原因となります

1. ミシンの操作時は安全保護装置をつけて下さい。
2. ミシンの操作中は針から目を離さないようにし、針・ハズミ車・天びんなど動いている部分に手を近づけないで下さい。
3. 以下のことをする時は電源スイッチを切り、モータが完全に停止した事を確かめて下さい。
   - ●針・針板・押さえ・アタッチメント・ボビン等を交換するとき
   - ●糸通し、上・下糸をセットするとき
   - ●ミシンの調整や掃除を行なうとき
4. ミシン・モータ等に以下の異常があるときは使用を中止し、お近くの販売店にご連絡下さい。
   - ●正常に作動しないとき
   - ●落下等により破損したとき
   - ●水に濡れたとき
   - ●異常な音や臭いがするとき

《職業用766型仕様》

最高縫速度	1,800回転/分までの縫速さで使用してください。
最大縫目	4.5m/m
使用針	DB×1（特別な縫いのため、TF針などもご使用になれます。くわしくは支店にお問い合わせください。
使用カマ	TA型
針棒ストローク	34.8m/m
押エの高さ	7m/m
ベッドの大きさ	399m/m×178m/m
フトコロの広さ	225m/m×145m/m

JANOME

職業用／766型

もくじ

⦿縫い始める前に

★使う前にきれいに拭きましょう。

このミシンは、頭部の錆(さび)や摩耗(まもう)を防ぐために防錆油(ぼうせいゆ)や潤滑油(じゅんかつゆ)が使われています。このため、初めの内は油が付着している場合がありますので、ミシンをお使いになる前に各部の余分な油を拭き取ってください。また日常の注油を行なった時にも、余分な油が流れ出ますので拭き取ってください。日常の注油については、35頁「注油の方法」をお読みください。

★試し縫いをしましょう。

これから縫う素材によく合った縫い方をするには、実際に縫うのと同じ布や糸で、同じ状態にミシンをセットして試し縫いをしてみるのが最適な方法です。

★説明書を読んでください。

この本は、ご使用になるとき、知っておいていただきたいことを説明したものです。お仕事をよりスムーズに能率化するために、ぜひこの本をお読みになり正しい操作をしてください。

★より安全に

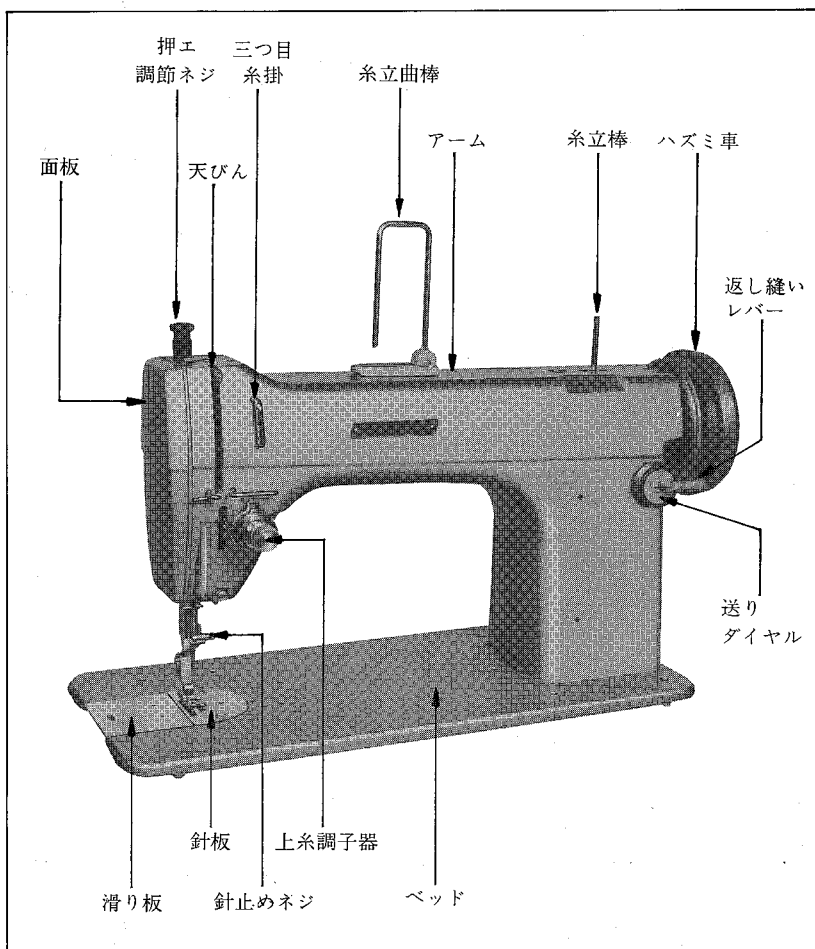
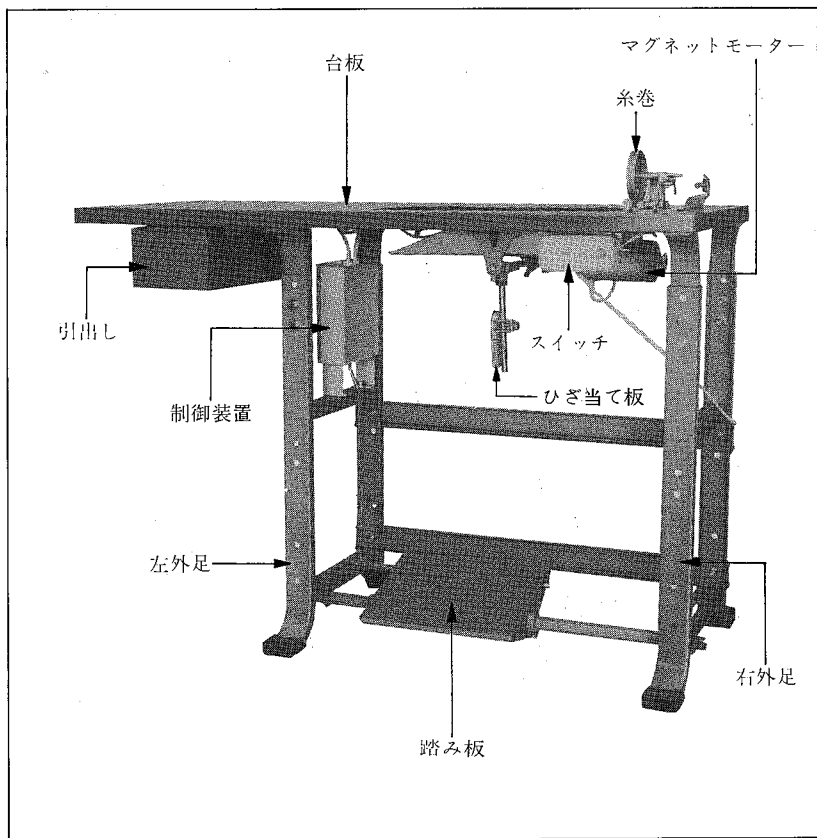
このミシンは安全性に十分注意をはらって作られていますが、それでもミシンの動く部分に手を触れたり、電動式の場合に電源を切らずにミシンを放置しておいたりして、思いがけない事故が起こらないとも限りません。

注意事項をよく読んで、最良の状態で作業を行なってください。また、裁縫中には針から目を離さないでください。ミシンを使い終ったら、電源スイッチをきり、注意ランプの消えるのを確かめてから、プラグをコンセントから引き抜いてください。

電動

各部の名称

⊙頭　部

押エ
調節ネジ
三つ目
糸掛
糸立曲棒
アーム
糸立棒
ハズミ車
面板
天びん
返し縫い
レバー
送り
ダイヤル
針板
上糸調子器
滑り板
針止めネジ
ベッド

各部の名称
（電動式）

⊙テーブル・足部

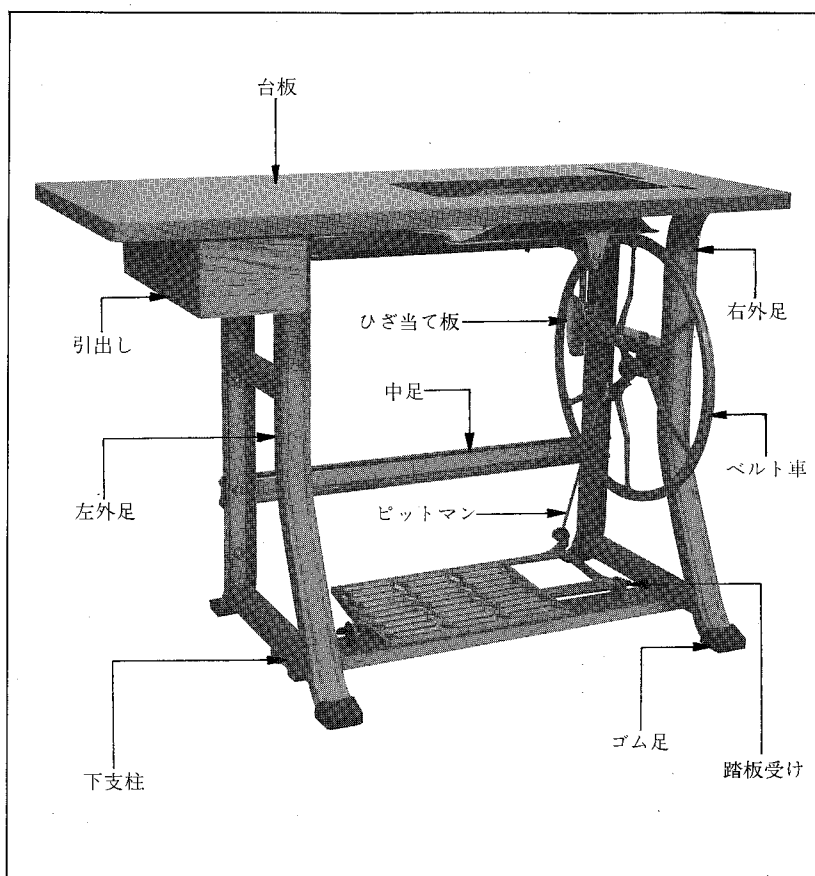
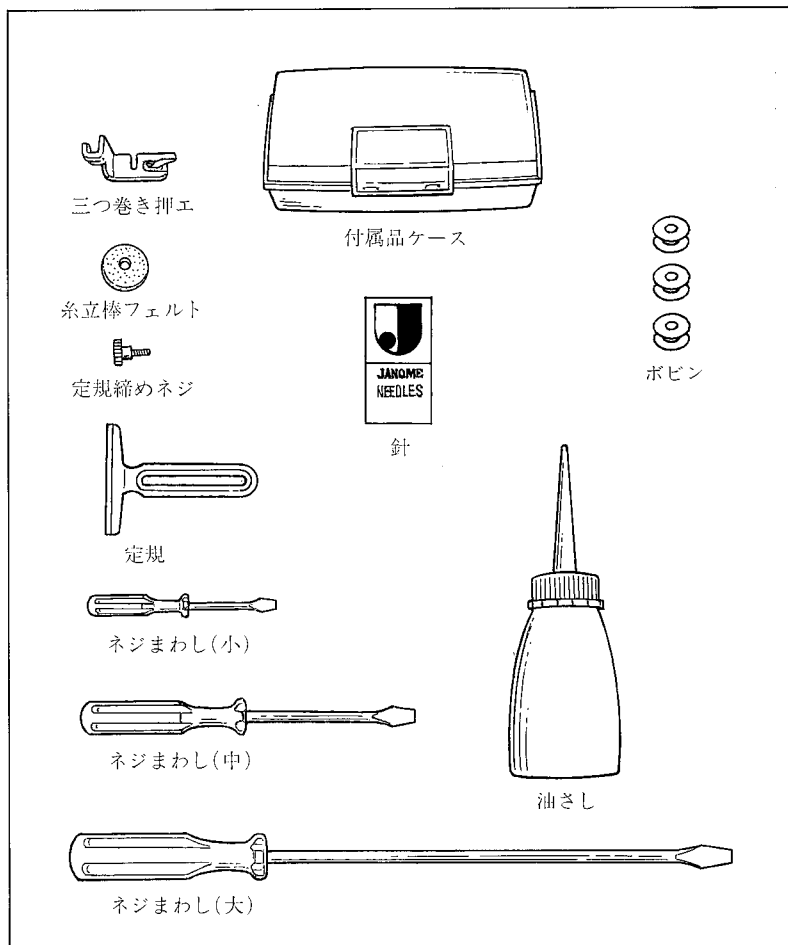
※ミシンテーブルはがたつきのないように設置してご使用ください。

各部の名称
（足踏式）

⊙テーブル・足部

※ミシンテーブルはがたつきのないように設置してご使用ください。

⊙付属品

三つ巻き押エ
付属品ケース
糸立棒フェルト
定規締めネジ
JANOME
NEEDLES
針
ボビン
定規
ネジまわし(小)
ネジまわし(中)
油さし
ネジまわし(大)

⦿布と糸と針の関係

縫い物の布地の厚さにより、針と糸は下表のような組合せを目安として選んでください。これは、ミシンの機能を充分生かし、美しく仕上げるための大切なポイントです。

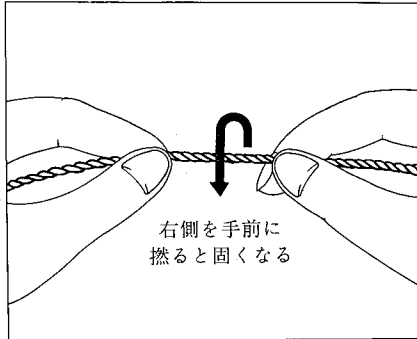
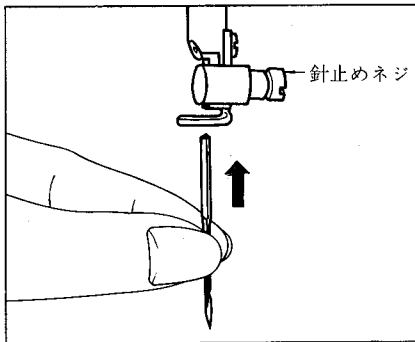
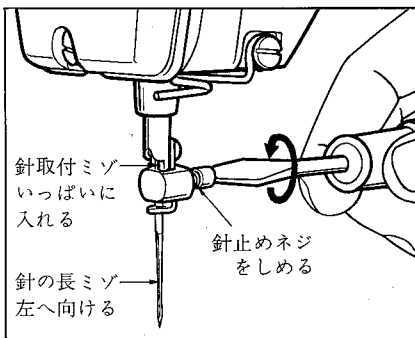
針DB×1

分類	布地の種類	糸の番手	針の番手
ごく薄物	クレープ、デシン、ボイル、ローン オーガンジー、ジョーゼットなど	綿 絹 100番以上	9番
薄物	タフタ、サラン、ブロード、キャラコ ギンガム、薄地木綿など	綿 絹 80～100番	11番
普通物	普通木綿、ネル、ツィード、サージ フランネル、その他一般服地	綿 絹 60～80番	11～14番
厚物	デニム、ギャバジン、コール天、薄いウール、厚いキャラコなど	綿 絹 40～60番	14～16番
ごく厚物	フトン被地、ウール、コート類、防水布など	綿 絹 20～40番	18番

●針の点検
全体が曲がってしまったものや、針先がつぶれたり、曲がったりしたものは、使用しないでください。

⊙糸の選び方

上糸は必ず1図で示す**左撚り糸**を使ってください。しかし、**下糸**は左撚り、右撚りのどちらでもかまいません。

1図　糸の撚りの調べかた

⊙針の交換

1 **針棒**を最上部にあげて、**針止めネジ**をゆるめる。
2 **針の長ミゾ**をミシンの**左側**に向ける。

2図　針の長ミゾを左に向ける。

3 **針棒の針取付ミゾ**にいっぱいにさしこんで、**針止めネジ**を固くしめつける。

3図　いっぱいにさしこんでしめつける。

電動

⊙下糸の準備(電動式)

下糸の巻き方

1 糸を**糸調子台の穴①**に通して、**糸調子皿の間②**を向こう側から、手前にまわして通す。

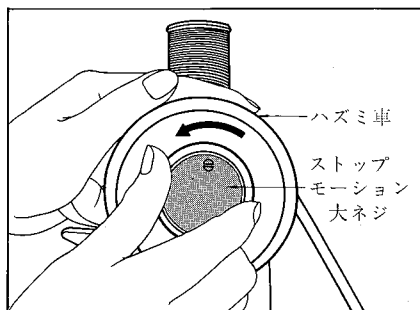
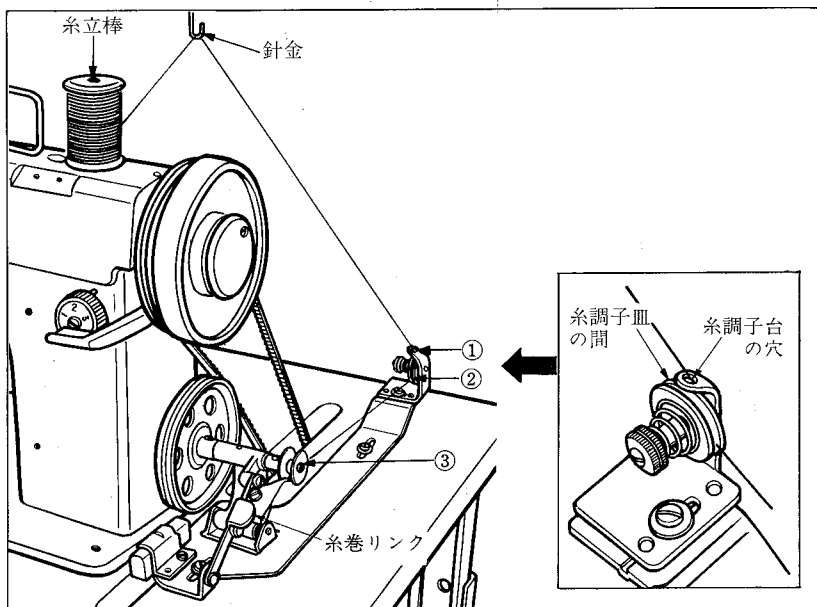
2 **ボビン③**の右壁いっぱいに数回糸を巻きつけて巻き始めの糸をボビンに固定させてから、**糸巻軸**へいっぱいにさしこむ。

3 **糸巻リンク(ボビン押エ)**を押して、**糸巻車**をベルトに接触させる。

4 **ハズミ車**を押えながら、**ストップモーション大ネジ**をゆるめ、(**2図**)**ハズミ車**がからまわりするようにする。

5 普通の運転と同じように、ミシンを回転させる。

6 ボビンに糸がいっぱいになると、**糸巻リンク**が戻って止まる。

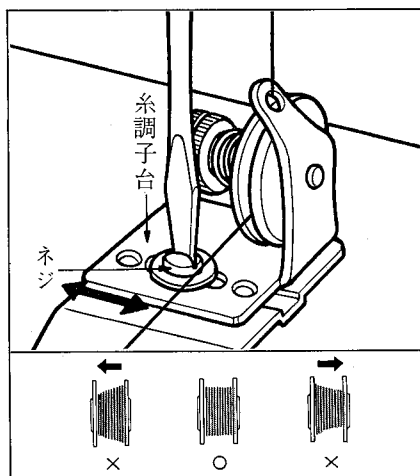
7 **ボビン**を**糸巻軸**からはずし、**ストップモーション大ネジ**をしめる。

1図 ストップモーション大ネジをゆるめる。

2図 電動式ミシンの下糸の巻き方

⊙糸巻装置の調節の仕方

●ボビンに糸が片寄るときは…

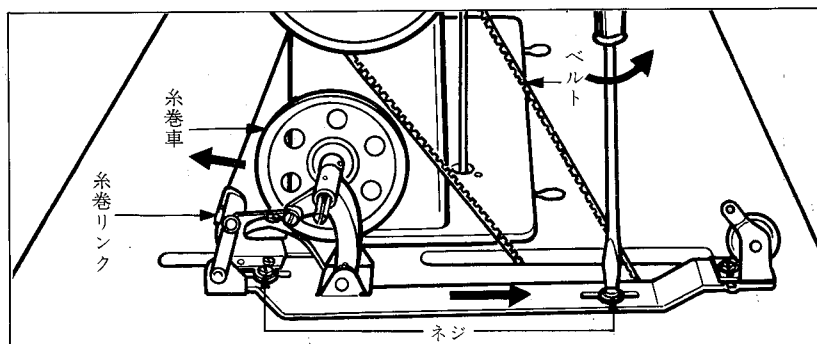
1図 糸が少ない方へ糸調子台をよせる

1 図の位置にある**ネジ**をゆるめ、**糸調子台**を、糸が少なく巻かれた方へ、わずかに寄せて、平均に巻けるように調節する。

2 **ネジ**をもとの通り、しっかりしめる。

●ベルトを押す力が弱くて糸が巻けないときは…

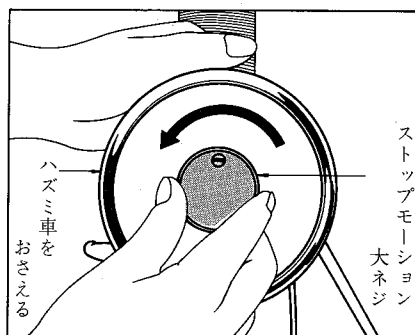
1 **糸巻リンク（ボビン押エ）**を起こす。

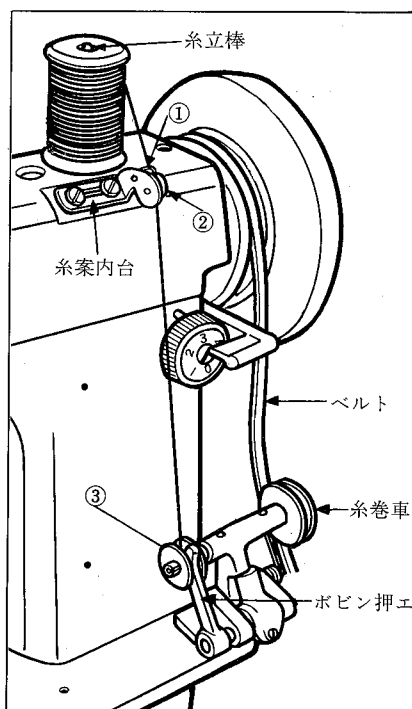
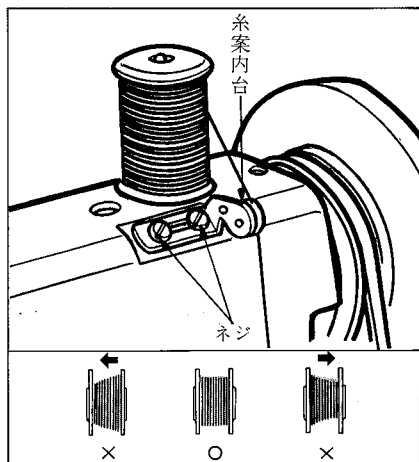
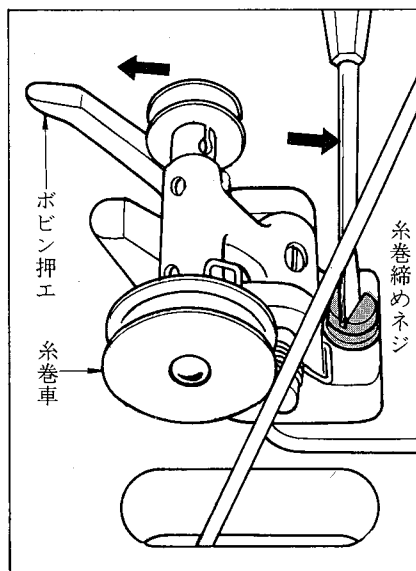
2 **ネジ**をゆるめ、糸巻装置全体をベルトの方へ寄せ、**ベルト**が**糸巻車**とわずかにはなれている位置に決め、**ネジ**を固くしめる。

3 さらにベルトがゆるんでいる場合は、**ベルトの張り具合**をなおす。（29ページを参照してください。）

2図 糸巻装置をベルトの方へよせる。

⊙下糸の準備（足踏式）

下糸の巻き方

1 **ハズミ車**を押えながら、**ストップモーション大ネジ**をゆるめ、ハズミ車がからまわりするようにする。

1図　ストップモーション大ネジをゆるめる。

2 **糸巻**をアームの後部の**糸立棒**にさして
3 糸巻から**糸案内糸カケの下①**にくぐらせ、**糸案内皿の間②**に上から通す。
4 **ボビン③**の右壁いっぱいに数回糸を巻きつけて、巻き始めの糸をボビンに固定させてから、**糸巻軸**へいっぱいにさしこむ。
5 **ボビン押エ**を押して、**糸巻車**を**ベルト**に接触させる。
6 縫う時と同じように**踏み板**を踏んで運転する。
7 **ボビン**に糸がいっぱいになると、しぜんにボビンの回転が止まる。
8 **ボビン**を**糸巻軸**からはずし、**ストップモーション大ネジ**をしめる。

2図　糸のかけ方とボビン押エの押し方

⊙糸巻装置の調節の仕方

●ボビンの糸が片寄るときは

ボビンには糸が平均に巻かれるよう調整されていますが、もし平均に巻かれないときは、次のようにして調整してください。

1 ネジをゆるめ、
2 糸が**少なく巻かれた方**へ、**糸案内台**をわずかによせて調整し、ネジをしめる。

1図　ネジをゆるめ糸案内台で調節する。

●ベルトを押す力が弱くて糸が巻けないときは

1 **ボビン押エ**をおこした状態にして、**糸巻締めネジ**をゆるめる。

2 **糸巻車**が**ベルト**に接触しない程度に近づけ、ネジをしめる。（**ボビン押エ**を押すと**糸巻車**は**ベルト**が「**くの字型**」になる程度に接触する。）

3 さらにベルトがゆるんでいる場合は、**ベルトの張り具合**をなおす。

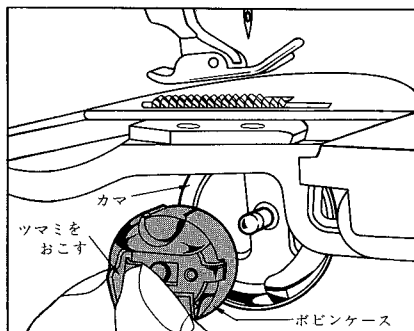
2図　糸巻車をベルトの方へ近づける。

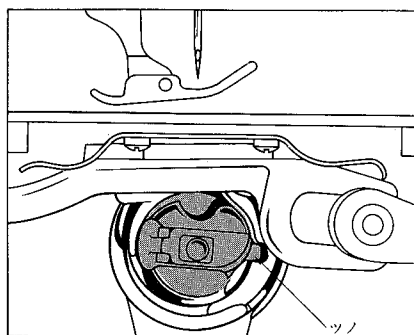
電動・足踏

⊙ボビンケースのとりだし方／とりつけ方

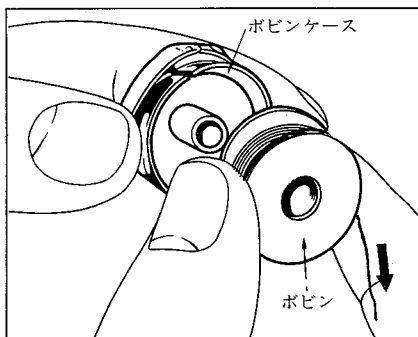
1 **ハズミ車**を手前にまわして、針を最上部に上げる。

2 **滑り板**をいっぱいに開く。

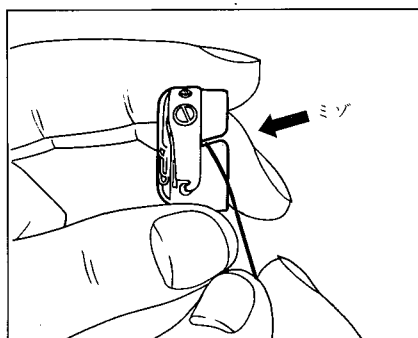
3 左手の親指で**ボビンケースのツマミ**をおこして、とりだしたりとりつけたりする。

1図 ツマミをおこしてとりだす。

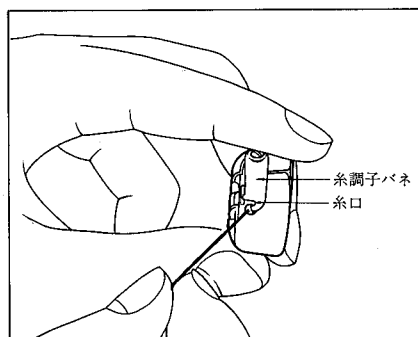
4 ボビンケースをとりつける場合には、ボビンケースのツノをカマ凹部にあわせ、奥の方へいっぱいに入れてからツマミをはなす。

2図 カマにホビンケースをキチンと入れる。

※ カマにボビンケースがきちんとはいっていないとミシンの運転中にはずれたり、針が折れたりする原因となります。

⊙ボビンをボビンケースに入れるには

1図　ボビンケースへボビンを入れて

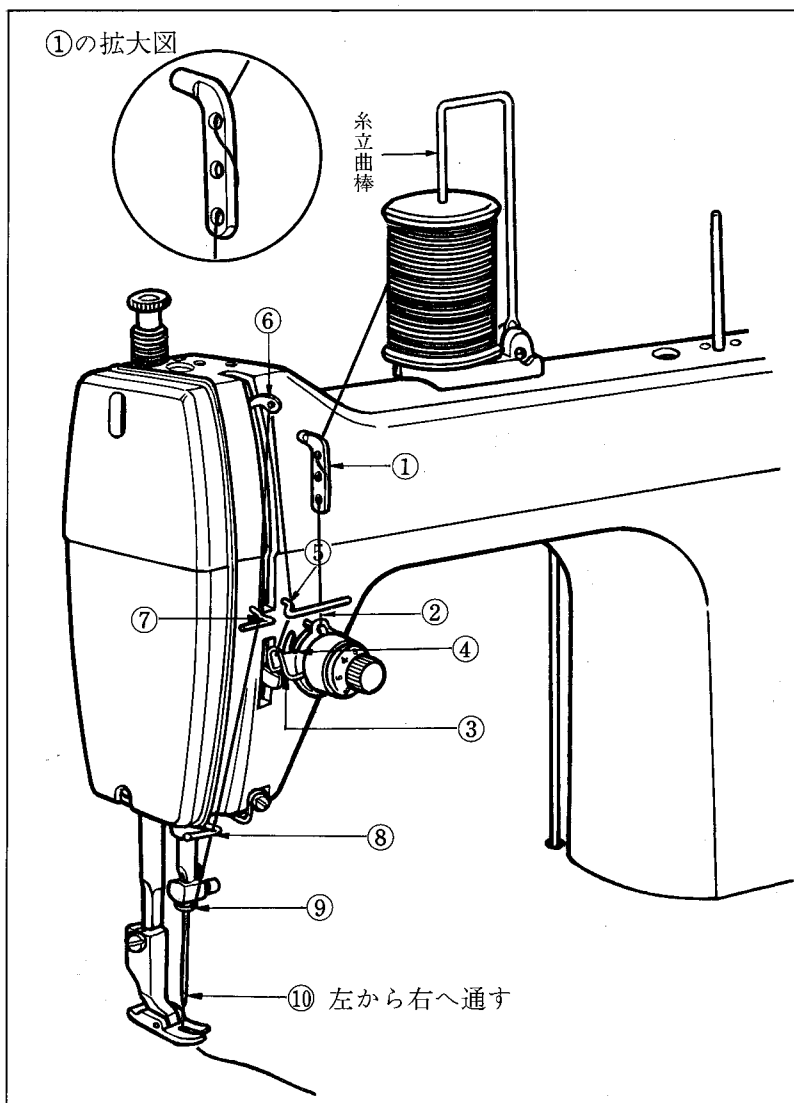
1 **ボビンの糸の端**を矢印の方向にたらしてボビンケースに入れる。

※ツマミを起こしたままでボビンを入れるときちんとボビンケースにおさまりません。

2図　切れ目から糸を通して

2 糸の端をつまんで、**ボビンケースのミゾ**に糸を通して引っぱる。

3図　糸口から糸をひきだす。

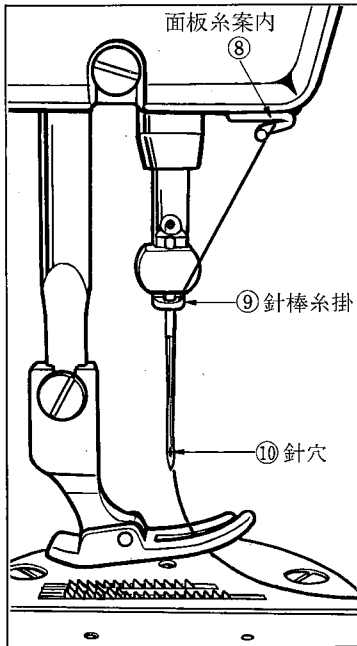
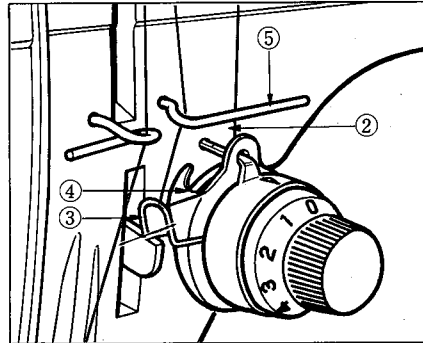
3 **調子バネの下**にくぐらせて、**糸口**から10㎝ほど糸を引き出しておく。

※ ボビンケースを取りかえるときは、このミシンについているのと同じものをお使いください。ちがうものだと針が折れたり、その他の事故の原因となります。

電動・足踏

⊙上糸のかけ方

1図　正しい上糸のかけ方順序

糸巻を**糸立曲棒**にさして、次の順序で糸をかけてください。
①**三ツ目糸掛**に通した糸を
②**糸調子皿の間**を右から左に糸をまわしながら
③**糸取りバネ**といっしょに
④**糸調子皿受のくぼみ**に糸が引っかかるまで糸コマを片手で押えて引き上げ、
⑤**アーム糸案内**にかけてから、
⑥**天びんの穴**に通し
⑦⑧**アーム糸案内**に通したら
⑨**針棒糸掛**に通して最後に
⑩**針穴**へ左から右に糸を通す。(糸の端は15cmぐらい引き出しておく)

※このミシンは高速回転するため、糸あばれを防止するには、
三つ目糸掛に左図のように正しく糸をかけてください。

3図　⑧⑨⑩の左側からみた拡大図

2図　②③④⑤の拡大図

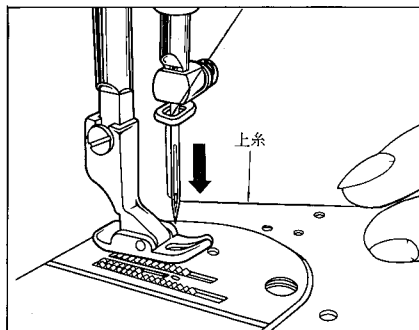
↑糸調子器の部分は…………②③④
特にこの部分は**2**図をみて正しくかけてください。

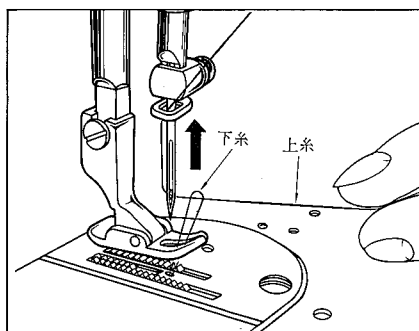
←針穴へ通すには…………………⑩
3図のように糸は必ず左から右へ通してください。

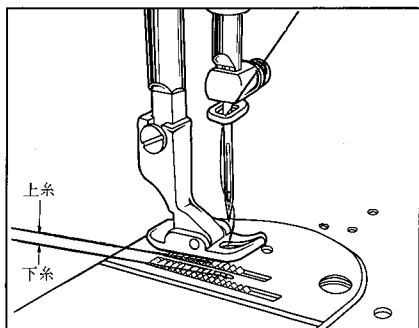
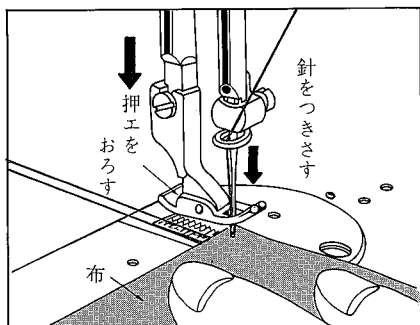
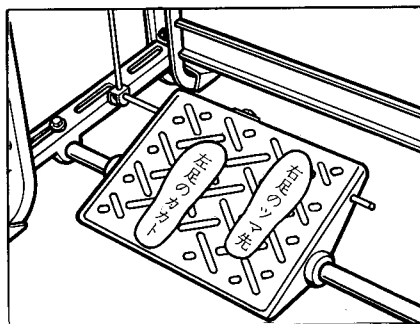
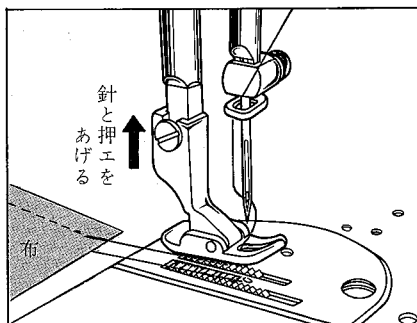
電動・足踏

⊙下糸の引き上げ方

1 左手で上糸の端をつまんで、ややゆるめてもつ。

2 右手でハズミ車を手前にまわすと、針が針板よりもさがり、またあがってくる。

1図　ハズミ車をまわして針をおろす。

3 天びんが最上部にあがったところでハズミ車を止め、左手で上糸を引くと、上糸は下糸をとらえて針板の穴から「わ」になってでてくる。

2図　一回転して針があがると下糸がでてくる。

4 出て来た上糸と下糸を、押エの下から向こう側へ15cmほど引き出し、そろえておく。

3図　上糸と下糸をそろえて向こう側におく。

1図　針をつきさし押エをおろす。

2図　踏み板の正しい踏みかた

3図　縫いおわりは必ず向こう側へ布を引き出す。

⊙縫いはじめ

1 天びんを最上部にあげ、上糸、下糸を押エの向こう側に15cmほど引き出し、糸のたるみをなくす。
2 ハズミ車を手前にまわし、縫う位置に針をおろす。
3 押エをおろし、縫いはじめの部分を止め縫いをするときは、返し縫いレバーを押す。
4 踏み板に2図のように足をかけ、**ハズミ車**を手で手前にまわしてはずみをつけ、踏み板を踏んで運転をはじめる。

※ 押エは“ひざ当て”でもおろせます。この操作は28ページを参照してください。

※ 電動式ミシンの取り扱いについては29ページから33ページまでを参照してください。

⊙縫いおわり

1 縫いおわって運転を止めるときは、ミシンが止まったあと**ハズミ車**を手前にまわし、**天びん**が上りきったところで止めて**押エ**をあげる。
2 縫い物は必ず**左斜め向こう側**へ静かに引きだし、上下の糸を切る。

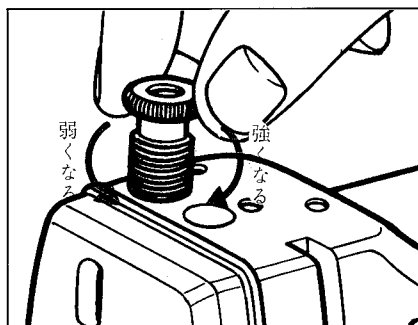
※ 上下の糸の端は、次の縫いはじめの用意に15cmほど残しておいてください。

⦿押エの強さの調節

押エの圧力は、縫い物の種類によって強弱を加減しますが、布地を送るのに充分な圧力で、できるだけ**弱い方**がきれいに縫い上ります。

圧力は、調節ネジをまわして調節します。**強くするには右へ、弱くするには左**へまわします。

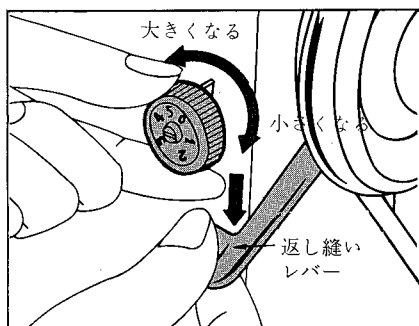
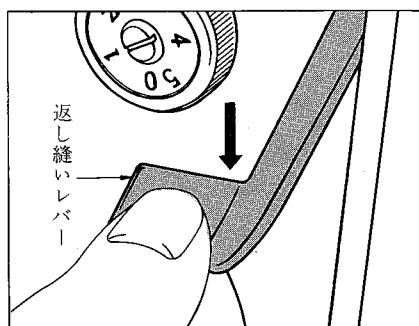
※ 薄い布地の時は圧力を弱くし、厚い布地や三ツ巻など付属品を使う場合は適当な圧力になるよう強くしてください。

※ これから縫う布地と糸を使用して試し縫いを行なって押エ圧力を調節してください。

1図　押エ調節ネジをまわして圧力を変える。

⊙縫い目長さの調節

1図　送りダイヤルをまわして縫い目を変える。

縫い目の長さは**送りダイヤル**をまわしてきめます。送りダイヤルをまわすときは、**返し縫いレバー**を軽く下側に押えながら行なってください。

縫い目を長くするには送りダイヤルを**左へ、短かくするには右へ**まわします。

⊙前後送り縫い

2図　返し縫いレバーを押えて返し縫いする。

返し縫いレバーを下にいっぱいに押えている間は、前進とほぼ同じ縫い目の**返し縫い**ができます。

※ 縫いはじめや縫いおわりを丈夫にするのに使うと便利です。

電動・足踏

⊙縫いの糸調子

一般に糸調子は、糸調子ダイヤルをまわして上糸調子を調節すれば良いが、布地によって、特に上糸調子ダイヤルだけではうまく調子がとれない場合のみ下糸調子を調節します。

1図　正しい糸調子と、悪い糸調子

●上糸調子の調節のしかた

数字が大きい程、上糸調子は強くなる。

数字が小さい程、上糸調子は弱くなる。

2図　糸調子ダイヤルを左右にまわして

●下糸調子の調節のしかた

右にまわすと下糸調子が強くなる。

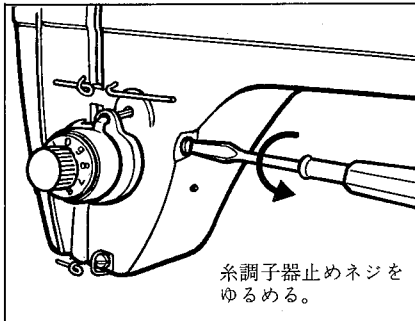
左にまわすと下糸調子が弱くなる。

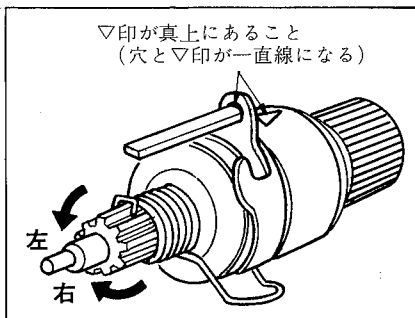
3図　ボビンケースの調節ネジをまわして

※ 通常は下糸の調節は必要ありません。

⊙糸取りバネの調節の仕方

普通の厚さの布地を縫う場合は、糸取りバネの強さの調節は必要ないが、布の厚さや種類によって、バネを調節すると縫い調子がいっそうよくなります。

例えば**極薄物の場合**は**糸取りバネ**を**弱く**する。
極厚物の場合は**糸取りバネ**を**強く**する。

1 図

1 糸調子器止めネジをゆるめ上糸調子器をはずす。

2 図　糸取りバネの調節は糸取りバネの位置をずらして

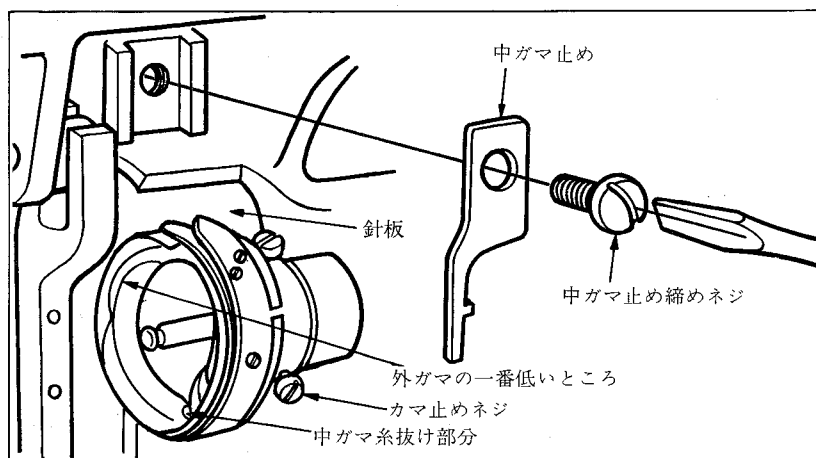
2 外したままの状態(穴と▽印が一直線になっている)で糸取りバネの組付ける位置(糸調子棒の溝)をずらす。
糸取りバネを強くする場合は
………………**右の方へずらす**
糸取りバネを弱くする場合は
………………**左の方へずらす**

3 位置をずらしたら押エをおろした状態でそのままもと通り組付ける。

4 糸調子器止めネジでしっかり固定する。

⊙カマの取りはずし方と取りつけ方

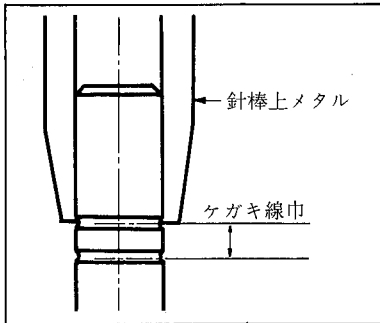
●カマを取りはずすときは……

①3コのカマ止めネジをゆるめる。
②ハズミ車をまわして針棒を最上部にあげる。
③中ガマ止め締ネジをはずし、中ガマ止めをとりはずす。
④カマをとりはずす（このときは**1図**のように外ガマのいちばん低いところを針板側にまわし、中ガマの糸抜け部分が手前側にくるような位置にしてはずす）。

1図　カマの取りはずし方

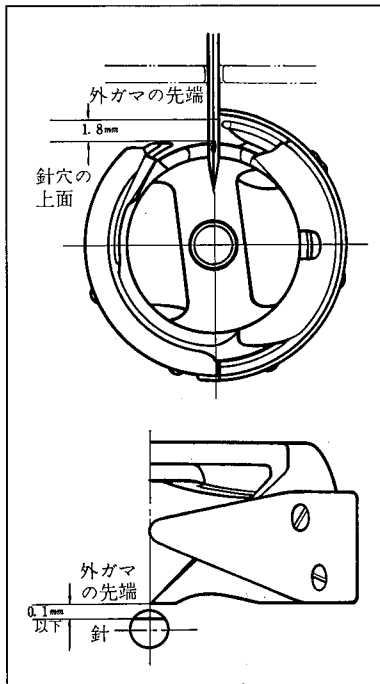
●カマを取りつけるときは……

1 取りはずしたときの逆の順序で、カマ、中ガマ止めを取り付け、仮に、ゆるく締めておく。
2 カマと針との位置の調節を25ページに従って行なう。
3 調節できたら、中ガマ止めを固く締めておく。

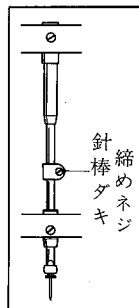
※この調整をするときは、電源からプラグを抜いてください。

⦿針棒とカマの位置の決め方

1図　針棒のケガキ線の位置

針棒（針）及びカマの位置が正しくないと、良い縫い調子は得られません。つまり針とカマの先端との間には一定の標準があります。

1 ハズミ車を手前にまわし、**針棒を最下部**にすると**針棒上メタル**の**下端**と**針棒の上側のケガキ線**とが一致する。**(1図)**
もし一致しない場合は、**2**図の**針棒ダキ締めネジ**をゆるめて、上下に動かし**ケガキ線**に合わせる。

2 ハズミ車を手前にまわし、針棒があがって、**針棒の下側のケガキ線**が針棒上メタルの下端と一致したところで止める。その状態で、**外ガマの先端**を針の右側に合わせ、**カマ止めネジ**で仮にしめておく。このとき**針穴の上面**から、**外ガマの先端**までが約**1.8**㎜になっていれば標準です。**(3図)**
そうでないときは、**針棒ダキ締めネジ**をゆるめ針棒を上下させて調整する。

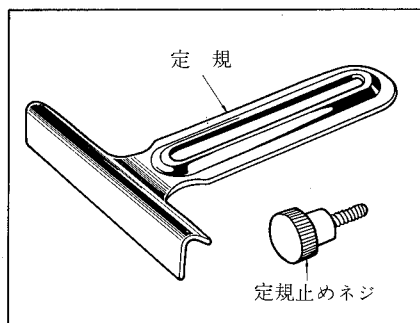
3 **針と外ガマの先端**とが交差するときのスキ間は、**0.1**㎜が標準です。**(3図)**

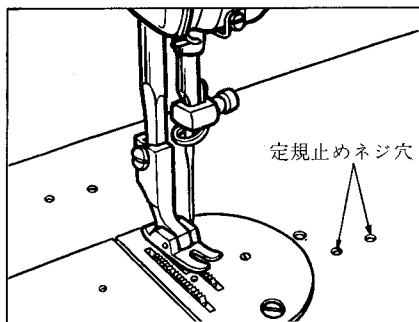
3図　針とカマの正しい位置

2図　面板をはずして、針棒ダキ締めネジをゆるめる

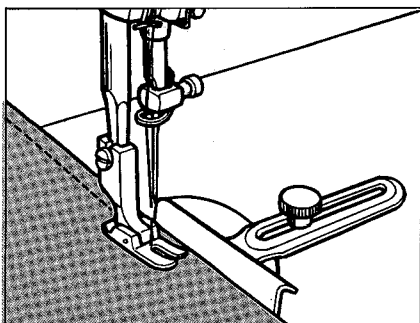
※この調整をするときは電源からプラグを抜いてください。

⊙付属品の使い方

《定規の使い方》

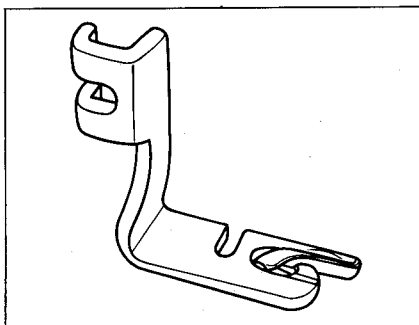
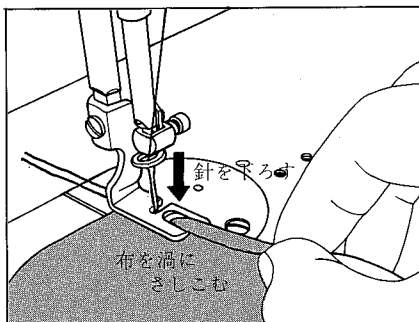
布地の端にそって縫いたいときや、端から3～4cmぐらいまでのところに縫い目をそろえて縫いたいときなどに、この定規が役立ちます。

1図　定規と定規止めネジ

1 定規を希望の間隔に合わせて、ミシンのベッドのネジ穴に定規止めネジでしっかり止める。

2図　定規を止めるネジ穴の位置

2 布地の端が定規にぴったりあたるようにして、しぜんに前へ送りながら縫う。

3図　定規を使って縫うところ

1図　三つ巻き押エにとりかえる。

《三つ巻き押エの使い方》

布地を三つに巻きこみながら、縫うことができます。

1 **針棒を最上部**にあげ、**押エを三つ巻き押エ**にかえる。

2図　三つ折りした布を三つ巻き押エにさしこむ。

2 三つ巻きをしようと思う布地の端を、約6㎝ぐらいの長さにわたって、2.5㎜巾に2度折りまげる。

3 折った布地の端を**三つ巻き押エ**の下に置き、針を静かにさし、折った布を**三つ巻き押エの渦の中**に巻くように入れる。

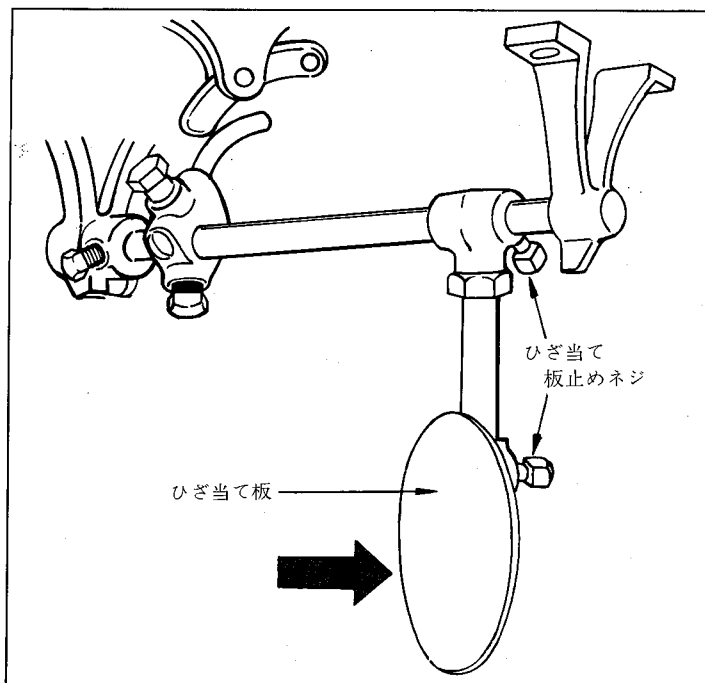
3図　布が同じ巾で入るよう右手で調節する。

4 **押エ**をおろして縫いはじめる。運針にしたがって、三つ巻き押エの中に布地が、**同じ巾**で入るように、右手でまっすぐに調節しながら縫う。

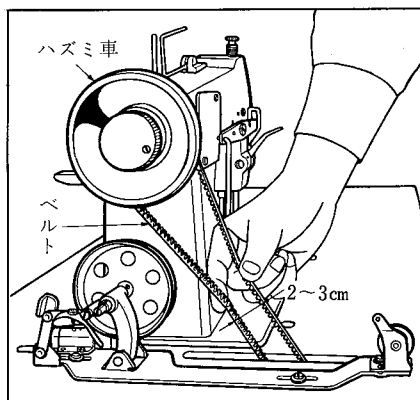
⦿ひざ当て

ひざ当ては、手で押エあげをいちいち上下に操作しなくても、ひざで操作できるようにしたものです。

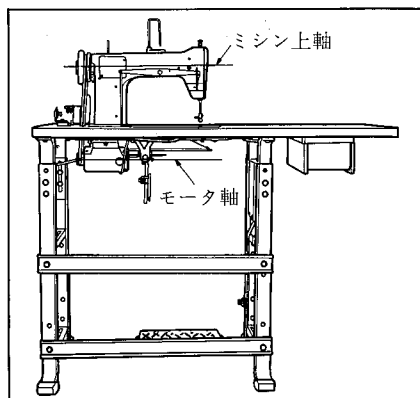
テーブルの下のひざ当て板を右方向へ押すと、押エは上がります。

※ ミシンが動いている間は、ひざ当ては使わないでください。
※ ひざ当て板は、ひざ当て板止めネジをゆるめて、操作のしやすい位置で固定して使用してください。

1図 ひざ当てを押すと押エがあがる。

⦿電動式のご使用の前に

初めてご使用になるときは、ベルトの張り具合と踏み板の踏み込み角度を確かめ、不具合のときは、それぞれ次のように調整して下さい。

1図　ベルトの張り具合

●ベルトの張り具合の調整

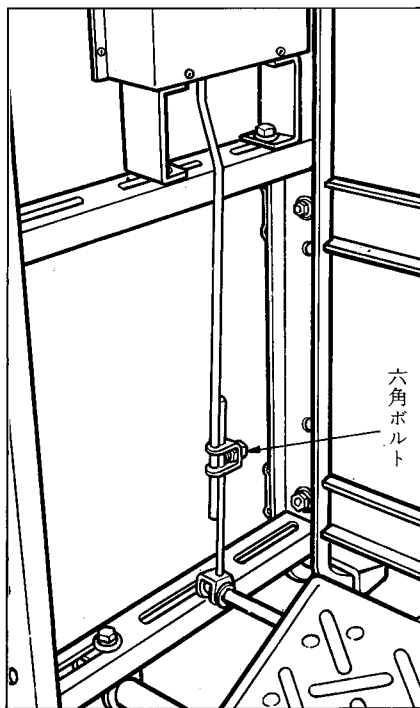
(1)ベルトの張り具合は、ベルトの中央をかるく指ではさんでみて、ベルト間隔が2～3cm程度になるのが適当です。
ベルトを強く張り過ぎると、モータが発熱することがありますので、ご注意ください。

2図

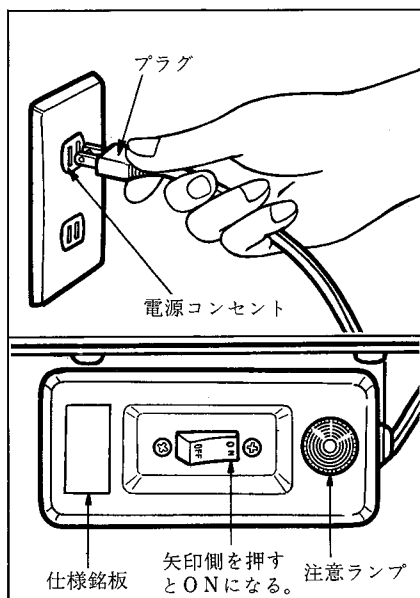
(2)ベルトの張り具合を調整するときは、ネジ（3か所）をゆるめ、モータ本体を移動させて行なってください。なお、そのとき、モータ軸とミシン上軸が平行で、ハズミ車とモータプーリのベルト溝の中心が一致するように調整してください。
また、ベルトは、当社指定のVベルト(全長814mm）を使用してください。

※ この調整をする場合は、電源コンセントからプラグを抜いてください。

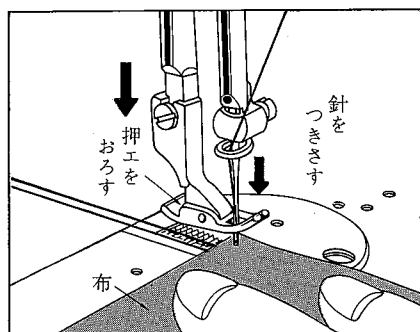
● **踏み板の踏み込み角度の調整**

踏み込み角度の調節は、六角ボルトをゆるめて、踏みやすい、好みの傾斜角になるように、踏み板を調節してください。
角度が決まったら、しっかりとしめつけてください。

※ この調整をする場合は、電源コンセントからプラグを抜いてください。

1図 踏板の調整の仕方

⊙電動ミシンの使用法及びご注意

1図

● **縫いはじめ**

(1)お使いになるときは、プラグを100V電源コンセントに差込み、電源スイッチのON(赤色表示)側を押すと、スイッチ脇の注意ランプが点灯し、通電状態になる。(切るときは、スイッチのOFF(黒色表示)側を押し、注意ランプが消えることを確かめる。)

2図

(2)ハズミ車を右手で静かに手前にまわして、針を布の縫いはじめの位置につきさす。

※ 電源スイッチONの時、踏み板を軽く踏むだけで、モーターが回転し、ミシンが縫いはじめますので、縫い作業を行わないとき、危険な場合があります。特にご注意ください。

(3)押エ上げをおろし、踏み板の上に足をのせ、足先で静かに踏み、縫いはじめる。

(4)ミシンの縫い速さは、踏み板を踏む強さ加減で変化する。
強く踏む………速くなる。
弱く踏む………遅くなる。

※ 踏み板を矢印の方向に踏む。
※ 制御装置は、踏み板を踏み込む強さ加減で縫う速さを調節する装置です。
※ 制御装置には注油しないでください。

1図　踏み板を矢印の方に踏み込む強さ加減で縫う速さを調節する。

● **縫っている時**

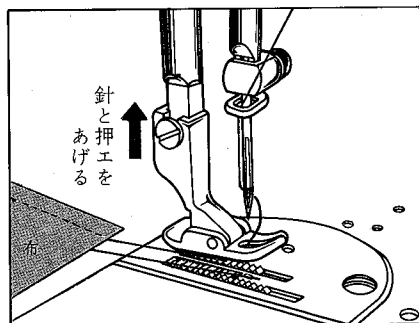
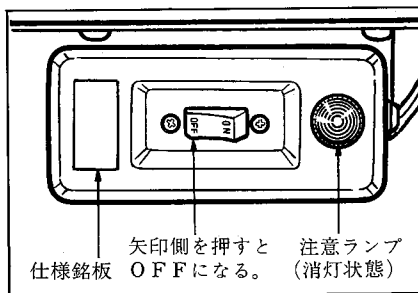
(1)縫製中に、ミシンやモータに糸がからんだり、布が食い込んだりして、ミシンの回転がにぶくなったり止まったりした時は、異常ですから、すみやかに踏み板の踏込みを止めてください。電源コンセントからプラグを抜いて（スイッチをOFFにし、注意ランプが消灯するのを確かめてから）、からんだ糸や食い込んだ布を除去し、手で軽くハズミ車がまわることを確かめてください。

2図

※ 無理に踏み板を踏み続けますと、
制御装置のヒューズが切れたり、モーターが発熱したり焼損する場合があります。

(2)モーターの通風孔は、温度の上昇を防ぐために設けたものです。これをふさがないようにご注意ください。（綿ボコリ、糸クズ等で通風孔がふさがらないように、時々、掃除しますとモーターが長持ちします。）

(3)ボビンへ糸巻きをした後、その残り糸をかたずけずにおくと、糸がベルトにからんで、ミシンのハズミ車やモータープーリにからまることがありますので、ご注意ください。

1 図　踏み板の矢印の位置を矢印の方向へ踏みもどすとブレーキがかかる。

2 図　針と押エを上げる。

3 図　ミシンを使用しない時は電源スイッチをOFFにする。電源コードのプラグをコンセントから抜く。

● **縫いおわり**

(1)踏み板を逆に踏みもどすとブレーキがかかり止まる。

(2)ハズミ車に右手を当て、天びんが最上部になるまで、手前にまわし、押エ上げをあげる。

(3)布地を左向こう側へ静かに引き出し、上下の糸を切る。

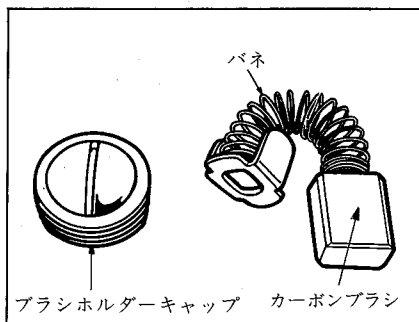
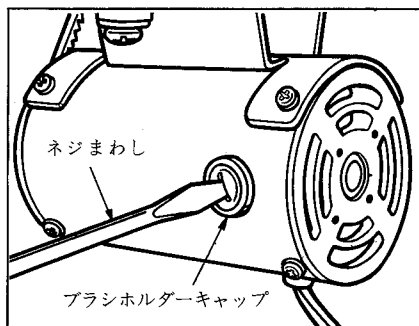
(4)ミシンを使用しないときは、電源スイッチのＯＦＦ(黒色表示)側を押し、注意ランプが消えたことを確かめる。

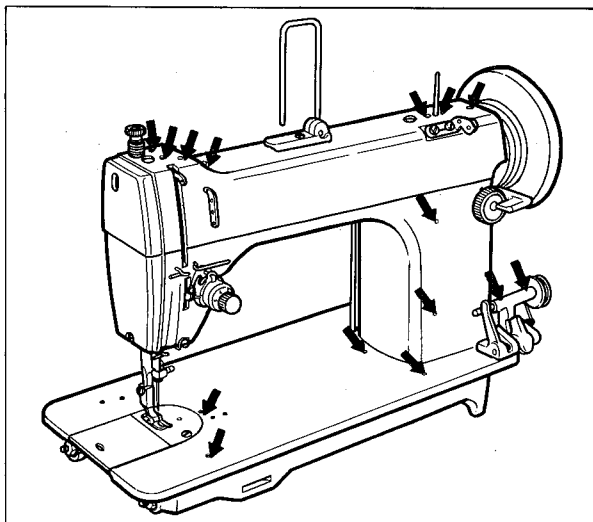
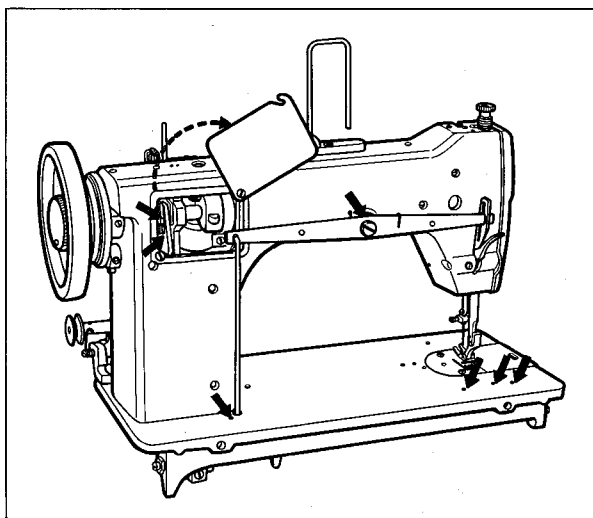
(5)電源コードのプラグを、かならずコンセントより抜いておく。

⊙カーボンブラシの取りかえ方

カーボンの長さが4㎜になったら交換して下さい。

※ この作業は、必ず電源コンセントからプラグを抜いて行なってください。

(1)新しいブラシのバネが短かくつまっているものは、バネの長さが17～18㎜程度にして交換する。
(2)ブラシホルダーキャップを静かにはずす。
(3)古いブラシを抜き出す。
(4)新しいブラシを入れる。
(5)ブラシホルダーキャップをかぶせ静かにねじ込む。
(6)電源コンセントにプラグを入れ電源スイッチをONにする。
(7)注意ランプが点灯するのを確認し、踏み板を少し踏んで回転を確かめる。
(8)ランプが消えたり、異常音、におい等がある場合は、ただちに電源コンセントからプラグを抜いて支店にご連絡ください。

1 図

2 図

⊙注油の方法

1図　ミシン頭部の注油個所(手前側)

2図　ミシン頭部の注油個所(後側)

電動・足踏

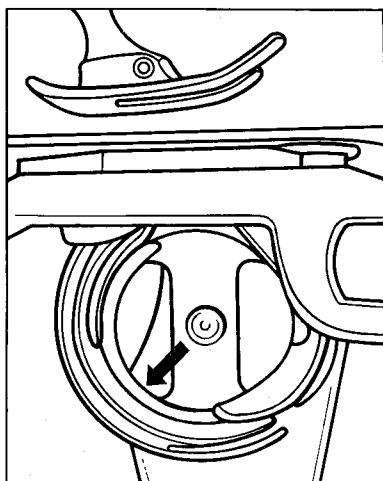
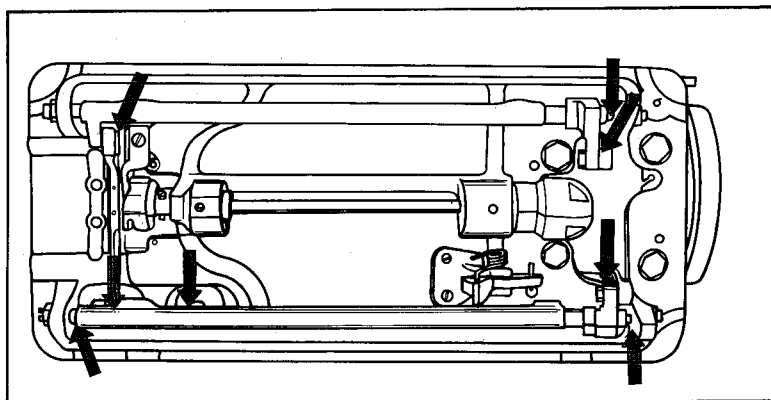
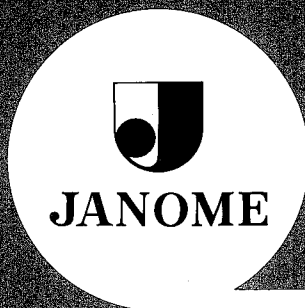
ミシンをいつまでもながもちさせ、使いやすくするためには、動くところに潤滑油が必要です。ご使用になるときは、ホコリなどを拭きとり、1図、2図、3図、4図の矢印に示した個所全部に2～3滴注油してください。注油後に余分な油が流れ出ることがあります。各部の余分な油は拭きとってください。

毎日数時間お使いになるときは、1日に1度以上の割合で注油をしてください。注油したあとは、ミシンを1～2分ほど回転させますとよく油がしみこみます。

3図のように、外ガマと中ガマの摺動部にも、ときどき1滴さしていただきますが、この部分へは必要以上に注油しないでください。またその場合、針板の針穴や送り歯の窓からカマ部に注油しないでください。

カマの摺動部へ注油した後は、少し試し縫いをしてから作業を行なってください。

※ 油は良質のミシン油をおすすめします。

※ 足部の踏み板やベルト車の動く部分へ注油してください。

3図 外ガマと中ガマの注油個所

4図 ベッドの裏側の注油個所

蛇の目ミシン工業株式会社
〒104 東京都中央区京橋3－1－1☎03(3277)2315(お客様相談室)

766-400-009JC⑤